

(様式3)

事業所名 ケアネットグループホームすざか

## 目標達成計画

作成日: 令和 4年 1月 26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ過で地域との交流もストップの状態が続いている。現在はコロナが収束に向かうのか予測の立たない中で、どのような方法を取ればいいのか模索している状況である。	地域との関係が、依存という一方通行では無く、地域の一員として、「参加」したり、「貢献」(役割を担う)したりできる場面を模索していく。	コロナ過では、情報の発信など、存在のアピールと事業所への理解を深めてもらえるよう努め、コロナ後の交流に備えていく。アンケート等の実施により、地域の方が事業所に望むこと、期待することなどを把握していく。	12ヶ月
2	32 34	ここ2年程は入院される入居者様も無く、落ち着いた状況が続いている。これはある程度リスク管理が適切に行われていることも大きな理由だと思われるが、リスクに気付きそれに対処する力を事業所として付けていく必要がある。(ここにて2名程入院されたが、いずれも短期間で退院されている)	なるべく入院に至らないよう、普段からリスク管理が適切にできる。やむを得ず入院になった場合でも、最短期間で退院できるよう主治医・病院との確認をしっかりと取る。ご家族と、人生の最終章のイメージをしっかりと共有していく。	普段から、ご家族とのコミュニケーションをしっかりと取る。具体的にどのような場合に入院治療を希望するのか？入院によるリスクについてもきちんと説明できるよう全職員が学習しておく。また、個々の入居者の疾患を把握し、起こりうるリスク等、あらかじめ予測しながらご家族と話ができるよう、知識を身につける。	24ヶ月
3	18	入居者の声を聴き、それぞれの想いに気づきそれぞれが望む暮らしを実現していく事業所であることを目指しているが、まだまだ職員都合が優先される場面が多く、入居者が主役になれているとは言い難い。	入居者の「できること」「望むこと」に目を向けて人生の「主体」であることを実感して暮らしていけることを応援する職員であるよう、意識を改革していく。	結果として「できる」「できない」ではなく、やるとする行動を尊重する。また、実際「携わる」事のできる場面をちゃんと作っていきけるよう、職員の価値観と関りを統一していく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月